

序 文

『獣医繁殖学』は第4版を刊行して以来10年以上を経過していた。その間に繁殖生理および臨床繁殖学の分野ではさまざまな新知見が得られ、新たな技術が臨床の現場に導入されてきた。同時に、繁殖学を含む獣医学の高度化およびその裾野の広がりには以前にも増して急速に進んでおり、知識を教授する教育から、学生が身に付けるべき考え方、知識、技術を示し、自主的な学びに必要な情報と学びの場を提供する教育への転換が求められている。欧米の獣医系大学で重視されているDay one competences（獣医師としての1日目に身に付けているべき知識と技能）はこれを具現化する教育システムの中心となるものである。わが国の獣医学教育では、全国の獣医系大学が教育の基礎とするコア・カリキュラムや臨床実習の前に実施するvetCBTおよびvetOSCEが定着し、獣医系大学ではDay one competencesを意識した国際水準の獣医学教育を実現する一助として、海外の獣医学教育認証機関からの認証を受ける動きがつついている。

今回発刊する第5版では、獣医繁殖学教育の変化に対応するものとなるよう、従来の構成を一部見直した。その1例として、内科学の教科書で詳述されている乳牛の乳房炎の記述「乳房の疾患」の章をなくし、「群管理」の章を新設した。また、専門化する獣医療に対応するため一部の動物種については編集アドバイザーを迎え、必要な内容が正確に記述されるようにした。章として変更のなかった部分についても、多くの章で執筆者が交代し、新たな内容となっている。さらに、学生がより深く学ぶために参考文献のリストを提供することになった。

第5版のもう1つの特徴は、獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠獣医学共通テキストとしての役割も担うことである。このため、全国の獣医繁殖学教育担当者で構成する獣医繁殖学教育協議会編として刊行し、学生がvetCBTおよび国家試験の準備に活用しつつ、獣医師となった後にも必要な情報を提供できるものとすることを目指して改訂を行った。これにより、『獣医繁殖学第4版』と『コアカリ獣医臨床繁殖学』の2編が本書に統合されることになった。今後、この教科書が獣医繁殖学を学ぶ学生および獣医師に広く活用されることを願っている。

このように、教科書として新たな版を出版することになったが、収録すべき内容および記述の正確性などには改善すべき点もあると思われる。それらについてはご指摘いただくことで、本教科書をさらに良いものとして充実させることにつなげたい。

最後に、本改訂にあたり充実した内容を学生の手が届けるために多大なご配慮をいただいた文永堂出版株式会社代表取締役の福 毅氏および企画段階から多大な労をおかけした松本 晶氏はじめ編集部の皆様にはあらためて心から感謝したい。

2023年8月
監修者代表 片桐成二